

## 公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	櫻坂英子 (申請時代表：滑田明暢)	所属	駿河台大学 (申請時代表所属：静岡大学)
研究会等名称	ジェンダー研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会場参加者 約 30 名 そのうち、登壇者については、下記記載。          会員 4 名 (うち認定心理士 0 名)          非会員 2 名 (うち認定心理士 0 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等          (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>日本心理学会第 87 回大会公募シンポジウム          (2023 年 9 月 15 日 (神戸国際会議場にて対面開催)          「家族の多様化と介護とジェンダー          —あなたの介護の「観察と調節」を誰が担うか?—」          企画代表・司会者：櫻坂 英子 (駿河台大学)          企画者：永久 ひさ子 (文京学院大学)          話題提供者：涌井 智子 (東京都健康長寿医療センター研究所)          山口 麻衣 (ルーテル学院大学)          馬場 絢子 (金沢大学)          指定討論者：永久 ひさ子 (文京学院大学)          滑田 明暢 (静岡大学)</p> <p>日本心理学会第 87 回大会において、シンポジウムを企画し、実施した。シンポジウムは、家族が多様化するなかでの介護の担い手を議論することをねらいとしたものであった。特に、介護のなかで誰が何を必要としており、それらを調節するという観察と調節の介護を誰が担うのか、ということに焦点が当てられた。</p> <p>シンポジウムでは、家族の多様化している現状と、その現状の中での介護の担い手と介護者が行っていること、そして、フォーマルケア (公的な制度等によるケア) の揺らぎのなかでのインフォーマルケア (家族等によるケア)、親子介護と親子関係に焦点を当てた話題提供が行われた。より具体的には、家族は多様化しており、インフォーマルケアにおける介護を主に担う人たちも多様化している。そして、フォーマルケアも、人手不足や財政難等の状況から、誰もが簡単にすべての介護をフォーマルケアに担ってもらうことが望めない状況にあると考えられる。また、被介護者と介護者との関係性は、関係者が介護の状況をどのように認識するかにかかわってくる、といったことが議論された。そして、娘 (女性) の立場と息子 (男性) の視点から、話題提供の内容を議論する指定討論が行われた。女性と男性で担う介護や担い方の傾向が異なるという議論もあり、その内容を理解しながらも、今後の観察と調節を担うことを議論する機会となった。</p>		

(様式5)

2024年 2月 25日

日本心理学会研究会

年度会計報告書

研究会名称 ジェンダー研究会

研究会番号 23021

助成金額 ¥30,000

年月日	項目	金額
2023年9月15日	講師謝礼 (シンポジウム登壇 10000円×1名)	¥10,000
	講師謝礼 (シンポジウム登壇 10000円×1名)	¥10,000
	講師交通費 (シンポジウム登壇者交通費 10000円×1名)	¥10,000
	※宿泊費を含む旅費35000円のうち、29760円を交通費 (東京-神戸:ポートルライナー「市民広場駅」の往復交通費)として算出。助成金額の残金が10000円であったため本会計報告書では10000円分の交通費支出として記載。	
	支出合計	¥30,000